

地域連携推進会議 議事録

会 議 名		障がい者支援施設鶴が丘学園地域連携推進会議
開催日時		令和 7 年 8 月 27 日 (水) 13 : 00～16 : 00
開催場所		鶴が丘学園会議室
出席者	推進委員	出席 6 名 ・ Y さん (利用者さん) ・ S さん (ご家族) ・ N さん (地域の関係者) ・ I さん (福祉に知見のある人) ・ N さん (経営に知見のある人) ・ N さん (市町村の障がい福祉担当者)
	学 園	出席 3 名 ・ 和田 敏幸 園長 ・ 高橋 修 副園長 ・ 坂井 志帆 総務課長
会議次第		1. 開会 2. 園長挨拶 3. 推進委員の紹介 4. 鶴が丘学園見学会 5. 地域連携推進会議 (1) 鶴が丘学園の地域連携 (2) 鶴が丘学園のサービスの透明性・質の確保 (3) 利用者さんの権利擁護 6. 閉会 < 参考資料 > ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 法人概要 ・ 施設概要 ・ 説明資料 (プロジェクター活用)

議 事 内 容

1. 開会 (13:00)

2. 挨拶 (和田園長より)

1) 地域連携推進委員会の目的について

(1) 事業所と地域との連携による ①利用者さんと地域との関係づくり、②地域の人への施設等や利用者さんに関する理解の促進、③サービスの透明性・質の確保、④利用者さんの権利擁護を目的に、事業所が設置する外部の目を入れる会議。

(2) 会議の開催による構成員との情報共有・意見交換と、構成員の施設訪問による職員や利用者さんとの関係づくり、事業所の環境や事業運営の確認を行う。

(3) 利用者さんにとってはより質の高い支援が受けられ、また地域との連携を深めることで、施設にとっても、地域での運営の定着を図ることをねらいとして開催する。

2) 委員の選任について

3) 本日の会議の流れ

3. 推進委員の紹介 (副園長より)

4. 鶴が丘学園見学会

1) 作業棟 2) 管理棟 3) 利用者さんの居室等

5. 地域連携推進会議 (13:35)

1) 社会福祉法人釧路愛育協会の説明 (園長より)

2) 障がい者支援施設鶴が丘学園の概要説明 (副園長より)

3) 施設等・地域との連携について

- ・ 日中活動、行事、地域貢献活動を通しての交流

- ・ 地域交流の課題

(意見等)・ふれあい広場というものを自分の周囲の人が知らないということにショックをうけた。周知の仕方なのでしょうか。

- ・ 小学校にもポスターは来ているし、実際自分も見に行ったことはあるが対象となる人しかなかかなか行かない傾向にあるかもしれない。

- ・ コロナ禍前は会場全体に飲食ブースがあり来場者も多くいたが、今は飲食ブース・販売ブースともに少ない。関係者以外にも広く知ってもらうことが必要。

4) 施設等やサービスの透明性・質の確保について

- ・ 利用者さんの日常の様子、事業の状況と BCP (事業継続計画)

(意見)・学校でも災害時の受け入れ態勢を考えていたところで、BCPについては同様に考えなければいけないと思っていた。災害時には協力できることもあと思うので連携をしていけたらと思う。

《休憩 5分》

5) 利用者さんの権利擁護について

- ・虐待防止の取組、事故防止対策、ヒヤリハット、ニコリほっとの取組、苦情対応の状況について
- ・施設内研修等の状況

(質問)・苦情は誰からきたものか～利用者さんのご家族からの苦情です。

- ・苦情対応はどのように行っているのか。他の保護者等にも伝えているのか～苦情対応規程に則り、苦情受付担当が苦情内容を聞き、職員へ聞き取り調査会議等で苦情について検討しご家族に説明をしています。また他の保護者の方等には2カ月に1度発行する『学園だより』に苦情内容・対応等の経過について掲載し家族懇談会で説明をしています。
- ・意思決定支援はどのように進めているか～昨年度地域移行した利用者さんは支援会議に参加し自分の意見等を話す機会を設定。普段の生活から自分の欲しい物などを選択する機会を増やしている。また意思決定支援責任者も選任している。

《推進委員からのご感想・ご意見》

- ・会議に参加して面白かった。また出たい。
- ・今回の会議に参加してもやもやしていたものが晴れた。今までどこか罪悪感もあり、今回話を聞いて施設の見えないところが見えて安心した。
- ・学校の抱えている問題と同じようなことが多く、実際学校も産休や育休に入ると人手不足になったりすることもある。職員トイレも使用したがきれいに清掃されていたが苦情にも上がるのかと思い、学校も生徒が掃除をするが行き届かない部分は職員もしている。また、災害時の避難場所としての連携も今後考えられる。それだけでなく、行事などでも交流して繋がれたらいいのではないかな。
- ・今回の会議で施設というなかでも閉鎖的にならないようにしていることも分かった。コロナによる停滞から地域交流も広げられるのではないかな。マンパワーの対応でも外国人材の登用の話があり、ぜひその職員にも研修等を行っていただきたい。
- ・母が町内会には入っているが、高齢や人数減少により活動ができていないと感じていた。また入所者に知り合いがいて行事等に数回来たことはあったが、あまり直接関わって来なかったのが今回施設がどういう所かを見ることができて良かった。近隣で牧場を営んでいるため、牛を通じての交流や、催し物などの案内をいただけたら何か活動を通じて交流ができたらいと思った。
- ・日中活動が潤うように提供すること、個の生活を大切にしていることを感じた。日中活

動の作業をしているところを見せていただけると支援員との関わる姿を見られたのではないかと思った。利用者さんが高橋副園長を「先生」ではなく「おさむさん」と呼んでいることで、利用者さんとの関係が良好なのが感じ取れた。施設間交流では、認定こども園や老人施設等の法人施設があることが『強み』であると思った。地域に開かれたということは「外部の人に入ってもらふこと」「利用者さんが外に出ていくこと」の両方が必要であり、障がいの方がいるのが当たり前という環境を作ることが大事である。

6. 閉会（和田園長より）

推進委員への感謝の意を伝えるとともに、皆様からいただいた意見等を今後の運営につなげていくことを伝えて終了する。

【鶴が丘学園より今年度の地域連携推進会議の成果として】

- ・利用者さんやご家族が参加して、学園の取り組みを再確認してもらうことで、安心につながった。
- ・地域に開かれた施設というご意見をいただき、地域移行は適切に進めながら、利用者さんが施設の中でも地域の住民として暮らし、権利が守られて生活できるよう、施設として研鑽を重ね運営していく。
- ・災害時の協力体制や交流の面で前向きなアドバイスをいただくことができ、運営や事業に反映させていく。
- ・今後は、さらに施設として利用者さんの意思決定支援を進め、利用者さんの希望する暮らしの実現を図っていく。